コカコーラ・キッド（1985）

THE COCA-COLA KID

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 オーストラリア
色彩 Color
時間 97分
初公開日 1987/10/31
公開情報 シネマテン

【解説】

鬼才マカヴェイエフがオーストラリアで撮った、いわゆる文化摩擦コメディで、かなり官能的なラブ・シーンを除けば、まるでビル・フォーサイス（「ローカル・ヒーロー／夢に生きた男」）作品のような、ほんわかムードと小気味いい風刺の重層が楽しめる。コカコーラ豪州支社長に着任のテレックスのつく前に、アトランタから到着した凄腕セールスマン、ベッカー。元海兵隊員の彼は潔癖症で、秘書のテリーのだらし無さに手を焼き、別れた夫が慰謝料をよこせと怒鳴り込んでくるに及んでは呆れてしまう。さて、ハイテクを駆使した販売案会議で、コークが全く売れていない地帯を発見したベッカーは、どうしたことかと訝って現地へ飛ぶ。そこ、アンダースン渓谷は地主マクダウェルが全てを自給自足し、清涼飲料も独自のものを作って売っていた。ベッカーは危険に晒されながらもその工場を発見するが捕えられてしまう。と、彼の勇気を認めたマクダウェルは自ら工場を案内し、コカコーラとの業務提携も申し出るが、それが全くイーヴンな条件だったので眼中にも入れられず、結局、自分の会社を乗っ取られる形になってしまうのだが……。マカヴェイエフが原作者Ｆ・ムーアハウスと共同で、彼の二つの短篇からこのストーリーを組み立てたのだが、主役ベッカーを演じたロバーツが撮影中相当ゴネて、思ったように仕上がらなかったと、脚本に名前を出すのを止めたという。スタッフのほとんどがオーストラリア勢で占められ、コマソンとして劇中製作される主題歌も、彼の国を代表するロック・バンド“スプリット・エンズ”のヴォーカリストだったＴ・フィンが当たっている。一応はコカコーラ社の承認を得て作られたようだが、開巻、延々と“当社とは何ら関わりのない云々”と言い訳が流されるのが滑稽であった。

【クレジット】

監督	ドゥシャン・マカヴェイエフ	Dusan Makavejev
製作	デヴィッド・ロウ	David Roe
製作総指揮	レイ・リスゴー	
原作	フランク・ムーアハウス	Frank Moorhouse
脚本	フランク・ムーアハウス	Frank Moorhouse
撮影	ディーン・セムラー	Dean Semler
音楽	ティム・フィン	Tim Finn
出演	エリック・ロバーツ	Eric Roberts
	グレタ・スカッキ	Greta Scacchi
	ビル・ケアー	

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.